資料４

業務実績に関する評価意見【全体評価】

業務実績全体についてご意見等がある場合は、下記に記載してください。
※項目別評価に関する個別意見がある場合は、様式②に記載してください。

【令和元年度業務実績に関する評価について】
（全般的事項、特筆すべき成果、今後に対する意見等）

【伊藤委員】
年度計画と実績を検討した結果、全体として、概ね適正に評価が行われていると判断します。
年度末には新型コロナウイルスが流行し、学生生活や大学管理にも大きな影響があったと思いますが、年度計画を殆どの項目で達成できたことは評価に値すると思います。
特に、A 評価としている項目に関しましては、今後の学生及び大学運営の質を向上させる価値のある取り組みであり、学生や教職員の方々の熱意が伝わってきました。
令和 2 年度以降は、⑮生活様式の変更等により、授業の方法や地域交流の方法、外部の方との共同研究の方法など、大学の運営方法にも大きな変化が必要となってくると思いますが、変化をプラスに変えて、更なる飛躍が図れることを期待しています。

【花泉委員】
（全般的事項）
①84 項目のうち、A 評価が 8 件、C 評価が 4 件、残りが B 評価である。ただし、C 評価の 4 件のうち、2 件は学科再編の動きに合わせる必要があるもの、残りの 2 件はコロナ禍によりやむを得ないとも言えるものである。全体的に見れば、年度計画を十分に実施していると認められる。

（特筆すべき成果）
自己評価書に挙げられている通り、
⑦・学生表彰制度の設立
⑪・地域公民館と連携した新たな体験学習の実施
・教職員・学生の地域貢献活動への参画
⑨・簡易電子決裁
の導入による事務の効率化
・広報戦略の策定
は特筆すべき成果と言える。

（今後に対する意見）
他の大学にも言えることであるが、⑯コロナ禍による下記のような影響がある場

合は、必要に応じて効果的な対策を期待したい。
・入構制限による学生の勉学意欲の低下や精神的不安定等
・三密対策等で制限を受ける、特に実験系の研究の遅れ
・同じく、三密対策等で制限を受ける、広報・就職支援活動

【梶委員】

全般的に中期計画・年度計画を積極的に実施し、成果も出ていて、大いに評価できる。

特に評価できる点として、

1、 新学生システムの構築推進により、スマートフォンから履修情報を見れるようにし、（年度計画１）⑧成績優秀者の表彰制度を創設実施（２）するなど、学生の意欲向上に取り組んでいること。
2、 将来、⑱社会で活躍する人材には人とのコミュニケーション能力も必要との意思表示として、入試要項に「対話によって・・・。」を追加したこと。（６）
3、 ⑫地域貢献事業として、企業向けにはコーディネーターの派遣（23）、大人向けには専門講座など公開講座開設（25、26）、子供向けにこども科学教室の開催（27）と、地域と共に歩む市立大学としての使命を果たしていて、大いに評価できる。
4、 ⑲学生の地域貢献を促し、種々活動に学生を参加させて地域貢献していると共に学生の成長に繋げている。（28）
5、 ⑩サイボウズの有効活用（42）やICカードの導入（78、79、80）など、利便性向上、ペーパーレス化及び事務作業の効率化に積極的に取り組んでいる。

なお、⑥計画と実績で定量化できる項目が散見できるため、極力数値化に取り組んだ方が、取り組みも評価もしやすいと思います。

【後藤委員】

業務全般の実施状況では、②95%の項目で計画通りもしくは計画を上回って実施できているとの報告であり、6 年間の中期計画の 1 年目の取組として、着実に実行できていると判断します。

特筆すべき成果としては、今後の社会の変化や展開に柔軟に対応するために大学院教育における「分野横断型シンポジウム」は重要であり、優秀学生の表彰だけでなく、⑳シンポジウムのプログラムを充実させたことで専攻間の学生・教員の交流が活発になり、分野横断型研究へ進展したことは高く評価できます。

また、⑬地域貢献に関する取組も高く評価できます。市民向け公開講座、こども科学教室、群馬県警とのサイバーパトロールコラボレイターの活動など、専門分野を活かした多様な貢献活動が地域での認知度を高め、将来的には地元学生の入

学の増加につながっていくと思います。このような取組に連動するように、オープンキャンパスの参加者数も増加しており、高校教員向け説明会参加校数も増加しています。地域とともにある大学として、一層の活躍を期待します。

加えて、㉑産官学連携事業に参加した教員が 37 名おり、共同・受託研究の間接経費の目標額を上回ったことや、「一般財団法人前橋工科大学研究教育振興財団」の創設、前橋市ふるさと納税「前橋工科大学支援」メニューの創設など、自律的な大学運営に必要な財源確保に向け積極的に取り組んでおり、評価できると考えます。

学部教育に関する取組では、学修ポートフォリオが導入され、ディプロマポリシーに基づく学修度が可視化されるなど、教育の質保証の向上の取組が着実に遂行されています。一方で、④中期目標は教育の質向上のための内部質保証の PDCA サイクルの確立であるため、学部教育の各目標の年度取組と実績が、中期目標達成の工程として明示されると、より分かりやすい年度報告になると考えます。

【高山委員】

自己評価欄に記載された評点は概ね適切と思います。新型コロナ禍の影響により、評点「C」となっている項目（59、64）については、今回、㉒代替措置が行われているので、評点「B」としてよいのではないかと考えます。

【川住委員】
※　個別評価の総括という趣旨で記載させていただきます。

・概ね大学の自己評価と同内容の評価を行うことができると考えます。そのため、評価項目の多くにおいて、AまたはBと評価することができ、大学は順調に年度計画を進めることができたと言えると思います。

・特筆すべき成果としては、A評価の項目をあげることができると考えます。

・今後の課題としては、C評価の項目をあげることができると考えますが、学科再編に関連してCとなっている項目については、学科再編を考慮するのに時間を要すると想像できるところ、取り組みが遅れている原因は理解可能なものであると言えると思います。大学には、引き続き、⑭学科再編等について検討を進め、計画に取り組んでいただきたいと思います。
また、コロナウイルスの影響に関連してCとなっている項目については、想定外のことであり、やむを得ないものと考えます。もっとも、⑰今後もコロナウイルスの影響は残ると思われるところ、大学には、WEBを利用するなどして、コロナウイルスの影響が残る中においても、よりよく対応していただきたいと思います。